

||||||| 記 事 |||||||

例会記録

第41回 日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・  
日本医史学会9月例会 合同例会

平成25年9月21日(土)  
鶴見大学会館2階サブホール

一般講演

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 1. 人体感染実験(1)      | 滝上 正 |
| 2. 日清・日露戦争と疾病     | 椎橋忠男 |
| 3. 在宅看護学の教育の変遷と課題 | 春日広美 |

特別講演

近代国家成立の発端となった生麦事件

生麦事件参考館 館長 浅海武夫

日本医史学会10月例会 平成25年10月26日(土)

順天堂大学医学部11号館センチュリータワー  
16階北フロア

- |                                   |      |
|-----------------------------------|------|
| 1. 明代の太医院組織と『御製本草品彙精要』の<br>編纂について | 土屋悠子 |
| 2. 佐藤進と李鴻章                        | 酒井シヅ |

書 評

小堀桂一郎 著

『森鷗外 日本はまだ普請中だ』

1. 碩学による『ミネルヴァ日本評伝選』のおもい1冊を手に、この書評をひきうけてよいかどうか、まよった。“テーベス百門の大都”(木下柰太郎)の入門もとおりにぬけていないものが森鷗外にむかひきれぬのか。

わたしの森林太郎体験は、「統計論争」とおしてみた森林太郎(シンポジウム「森林太郎と森鷗外」, 本誌第51巻第1号)にのべたことにつきる。精神病学者呉秀三の畏友(同級生森篤次郎の兄)としてまずその人に関心をもった。呉の訳書『医学統計論』をめぐる統計論争をおっていくと、森の攻撃性があまりにはげしいことをした。かつての横綱朝青龍が、やぶった相手をさらに一押ししたような感じである。さらに森茉莉につきすこしくききすることがあり、この人を

そだてた家庭がどういふものだったろうか、とおもった。

精神科医であるわたしの関心は、森鷗外の作品よりは森林太郎の人にあった。最近つぎつぎとだされている、森の伝記にふれる著作はほとんどよんできた。この本にも、その態度でとりくむことにした。

2.

まず指摘しなくてはならないのは、この本が歴史的仮名づかい、旧字体でかかれていて、促音、拗音に小字がつかわれていないことである。ここには、森にならない国語をまもろうとする著者の志がでているのだろう。基本的には歴史的仮名づかいおよび旧字によって教育されたわたしは、全体を無理なくよみとおせたが、よりわかい世代にとつ